

## 第5期 復旧・復興期

### 5-1.復興対策

#### 1.南西沖地震災害復興対策推進委員会の設置

##### 01.まちづくり・水産業振興・生活支援対策に対して具体的な問題が検討された。

被災地域の復興対策を総合的に推進するための庁内の横断的な組織として、平成5年8月9日に関係各部の次長及び室長で構成する「南西沖地震災害復興対策推進委員会」を設置した。また、同委員会の中に、復興対策の重点課題である「まちづくり対策」、「水産業振興対策」、「生活支援対策」に関する三つのプロジェクトチームをおき、それぞれの専門的、具体的な問題の検討を行った。[『平成5年(1993年)北海道南西沖地震災害記録』北海道(1995/3),p.91]

#### 2.南西沖地震災害復興対策室の設置

##### 01.国や市町村の総合窓口として、総合的施策の企画や調整等の事務処理を行った。

復興対策に係る総合的な施策の企画及び総合調整等を行う臨時特別の組織として、平成5年8月20日、「南西沖地震災害復興対策室」を設置した。同室は、国及び地元市町村などとの総合窓口として、被災地域の復興対策に関わる総合的施策の企画及び総合調整等の事務を処理するとともに、併せて南西沖地震災害復興対策推進委員会に関わる運営事務を所掌することとした。[『平成5年(1993年)北海道南西沖地震災害記録』北海道(1995/3),p.92]

#### 3.南西沖地震災害復興対策関連予算措置の状況

##### 01.被災者の民生安定の為、早期復旧対策費や復興対策関連費等の予算措置を講じた。

北海道南西沖地震に係る被災地域の災害対策として、被災者の民生安定のため緊急に措置を要する経費や被災した施設の早期復旧を図るための経費など復旧対策費の予算措置を講じてきたほか、一日も早い復興に向けた復興対策関連経費など所要の予算措置を講じてきた。[『平成5年(1993年)北海道南西沖地震災害記録』北海道(1995/3),p.95]

#### 4.奥尻再興への第一歩

##### 01.奥尻島の住民は目標を持って働いている。

稲穂地区にはいると、目を見張ってしまった。津波の残骸が見事に片づけられている。海栗前地区、ここも同じくきれいになっていた。(中略)高齢の人と子どもは、安全だった他の地区に避難させ、津波から残った集会所は、働ける人たちだけにしている。女の人たちは、集会所にいる人たちの炊事、洗濯、掃除などを受け持ち、男たちは行方不明者の搜索と後片づけを、日割り、時間割りを作って分担しているのだという。津波の傷

痕も完全には癒えてはいないのに、この人たちはすでに目標を持って働いている。[『わが奥尻島 悲しみを超えて、夢を追う』木村清紹(1993/10), 祥伝社,p.276]